

# 秋といえ

ホープス・サポート91 所長 江口 浩司

日本列島が酷暑に見舞われ、皆様におかれましては体調管理に一苦労も二苦労もされたことと思います。9月に入り朝晩こそ多少秋らしくなったものの、日差しと気温差には気を付けたいものです。



秋といえば「報恩まつり」があります。法人の三大イベントの一つです。その昔は「収穫祭」と言って、秋の味覚を楽しみ、作品販売を行っていました。収穫と言ったら農耕班が大活躍です。農耕班がとうもろこし・かぼちゃ・花豆など多種多彩の野菜を販売し、椎茸班が生シイタケ・乾燥シイタケの販売をして、それを目当てにいらっしゃる地域の方も大勢いました。当時の野菜は有機栽培(?)ではなかったかもしれませんが「のん気・元気」ではあったようです。椎茸は原木栽培でしたので、お天道様と相談しながらこの日に合わせて収穫する大変さもあったようです。そんな秋ですが、近年めっきり「秋が短い」と言われるようになりました。海や山で暮らす生き物にも大きく影響していますね。「イカが食べたい」「サンマが食べたい」と思っても、もう遅いのでしょうか。

話題は変わり、オリンピックがありました。各競技において誤審(?)が取りざたされています。きっとまたルール改定があり、時代に合った世界共通基準に見直される事でしょう。しかしながら、どの競技も1点をとる重さは、練習量と質に比例するものだと思います。職業人として自分に置き換えることを心に抱く私でした。

## 地域生活って？



くるみ寮 支援課長 渡邊 雅貴

くるみ寮は「地域生活」を支援する事業所になります。19歳から75歳まで様々な年齢層の方が16か所のグループホームで生活しています。1ホーム4~6名の少人数で生活しています。夜勤者のいるホームもあり、必要な方には24時間365日職員が支援出来る体制を組んでいます。

最近よく聞く「地域生活」という言葉ですが、検索してみてもなかなかしっくりくる回答は得られません。では「地域生活」って何なのか?そんなに良いものなのか?どんなことがあるのかちょっとご紹介したいと思います。

例えばグループホームは町内会に入っており、町内会費を納め、利用者様や職員は町内の清掃活動やお祭りに参加しています。また、町内の図書館で本を借り、近所のスーパーで昼食のお弁当やカップラーメンを購入し、近所の床屋に散髪に出掛けています。もちろん必要な場合は利用者様お一人ではなく、職員が一緒に行動しています。少人数で食卓を囲み、ゆったりとしたスケジュールの中で生活する環境もグループホームならではかもしれません。

また、ある時には誤ってグループホームの壁やドアを壊してしまうこと、トイレを詰まらせてしまうことがあります。ある日は通所や通院を嫌がり、食事をこぼしてしまう、体調を崩してしまうことや転んでケガをしてしまう等々、職員が24時間支援する体制を組んでいても、日々様々なことが起こっています。

「地域社会」の中で生活することで良くも悪くも様々な出来事が起こります。その一つの経験がその人らしい「地域生活」を彩っていくのでは、と期待して日々に一喜一憂する毎日です。

